

資料名：新宿区文化芸術振興会議（第6回）議事 要旨

■日時 平成24年6月26日（木） 午後3時から午後5時まで

■会場 新宿区立新宿歴史博物館講堂

■出席者

委員：高階会長、垣内副会長、星山委員、高取委員、乗松委員、松本委員、  
大和委員、小口委員、佐藤委員、舟橋委員

事務局等：加賀美地域文化部長、橋本文化観光課長、菊地文化観光係長、石塚文化資源係長、北見主任、楠原主任、渡邊主任

■欠席委員：石丸委員

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 高階会長から、本日の主要な議事は、「新宿区文化芸術の振興に関する懇談会報告書」の提言実現に向けた平成24年度の取り組みの方向性を確認するとともに、推進会議として、平成22年9月から2か年の活動実績を報告書として取りまとめるため、専門部会で整理した報告書（案）をもとに、内容や構成について議論することが示された。

また、本日の進行について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事（1）から（5）までを一括して審議することを確認した。

2 議事（要旨）

- (1) 第5回会議内容の確認について  
議事概要、議事要旨に基づき、第5回会議の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 振興会議の運営（進め方）について  
資料2に基づき、第5回会議から第6回会議までの進捗について、垣内専門部会長が報告を行い、資料の詳細は事務局が説明を行ったが、特に質疑はなかった。
- (3) 新宿区文化芸術の振興に関する懇談会報告書の提言と提言実現に向けての平成24年度の取り組みの方向性について  
資料3に基づき、懇談会報告書に記された28項目の提言書について、垣内専門部会長が第5回会議以降の取り組み状況の報告を行った。資料の詳細は事務局が説明を行ったが、特に質疑はなかった。
- (4) 振興会議独自の調査審議事項「新宿フィールドミュージアム」について  
資料4-1から資料4-3までにに基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料

の詳細は事務局が説明を行った。

(5) 振興会議（第1期）報告書（案）について

資料5に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

(6) 意見交換

- ・4ページに振興会議委員の写真が載っているが、委員名簿と照らし合わせてみて、中山区長は委員ではないのではないか。中山区長は名前に括弧を付けるか、委員とは別扱いで記載した方がよい。
- ・4段目の表記について、できたら「欠席」というのは外していただけないか。
- ・6ページの左側の緑色の部分、「子どもの生きる力と豊かな心を育む」という項目のうちの1つ目の項目で、地元美術館の協力の記載があるが、これは「地元の美術館と区民ボランティアの協力により」の方がよい。本文中でも、区民ボランティアのことを書いてもらいたい。対話型美術鑑賞教室はボランティアの協力がなければできなかったもので、このことを記述することは非常に大事である。
- ・8ページ左側の項目のうち、「ロゴマーク作成」も項目立てして記載した方がよい。
- ・37ページの高階会長のメッセージが報告書で一番大事な部分であるが、振興会議の第1期の総括に記載されている「中核的な機能の必要性」について、中身は議論を一旦置いておいて、このことに触れておくことは大事である。
- ・表現の仕方として、「中核的機能はない」という前提に対して、「こういう機能が必要だ」と表現するのであって、今の記述内容では、現状では中核的機能が存在していないというふうに捉えられてしまうおそれがある。素案の表現を生かすとしたら、「中核的な機能を強化することが必要である」という記述の方が正確な表現である。
- ・専門部会でも「中核的な機能」の記述について議論したが、第2期振興会議の重要な大きなテーマになるのではないかと考えている。第1期では、「コーディネーションを行う中核的な機能」について無理して何か考えるというのは時間的にも難しい。
- ・たとえば、昨年度は新宿フィールドミュージアム協議会ができたが、それは1つのネットワーク機能であり、コーディネート機能でもあった。
- ・神楽坂のあたりでもいろいろとネットワークが構築されている。
- ・コーディネーションやネットワークというのは、実はあちこちにあるし、浸透しているので、やはり「より強化することが必要」という表現が適切である。
- ・今あるネットワークを更に充実しようとか、もっと区民レベルでやろうとか、文化芸術振興基本条例の「私たち区民」に広く浸透させて、より推進していくことが大事なことなので、「中核的機能の必要性の認識」が総括になるといいが、表現をもう少し考えた方がいい。
- ・SFMのロゴマークはあちこちで見るので、このロゴマークが何を表しているのかがわかるように構成した方がよい。
- ・「振興会議の調査審議事項」の箇所で、「文化芸術に関する28項目の提言への取組状況の進行管理」の「進行管理」という言葉は固い表現だと思う。もう少し表現を練った方がいい。

- 28項目の提言内容の具体的な取り組みの1つとしてフィールドミュージアムがある。ここ2年間で、新宿区では、文化芸術振興基本条例ができ、28項目の提言に対して、事務局を中心に非常に進んできたということをもう少し記述してもいいと思う。
- 28項目の提言に対して、従来からのさまざまな活動がたくさんあって、そのことは「28項目の提言への取組状況」として集約されているが、これらの提言実現に向けて、フィールドミュージアムとして具体的な取り組みになった、ということを知りやすく書いた方がよいと思う。
- コーディネート機能については来期の課題になるかと思うので、今回は書く必要がないかもしれないが、たとえば新宿文化センターは、もう少しこうした機能を深めてもいい時期に来ていると思う。
- 今期の振興会議ではフィールドミュージアムのことを中心に進めてきたし、次期振興会議の議題になるのかもしれないが、文化センターがある界隈も状況が変わってきているし、文化センターに対して何か期待して、もう一歩進化させる議論をした方がいいと考えている。
- 文化センターのあり方について、平成24年度の取り組みの方向性のところで「7つの提言実現の取り組みの推進」とあるので、平成23年度に引き続き、より進化したような形で進めてもらいたい。
- 文化センターの活動の中には、区民のためだけではなく、区民によい影響を及ぼすような催しがある。たとえば、今年の7月に5日間を通して、東京都合唱連盟の合唱祭を開催する。1日に40団体以上出演するので、40団体×5日間、およそ200団体の合唱団が合唱祭に出演するとすると、文化センターをはじめ、新宿のまちのにぎわいに、大きな影響を及ぼすのではないかな。
- 東京都全域の合唱祭のような催しをもっと充実させれば、新宿のまちの賑わいにつながっていく。
- コーディネーター的な観点から見た文化センターの役割というか、これは新宿未来創造財団の役割について考えたときに、文化センターとして取り組む文化芸術といったら、もう少しコーディネート機能を高めていく、あるいは専門性を高めるということをして次期振興会議の議論として取り上げてみてはいいかな。
- この報告書は全体に、どのページを開いても興味を引くように書かれていると思うが、文字色と地色の組み合わせがページによっては読みづらいところがある。
- 28項目の提言に対する取り組みについては、グリーンが統一されて地色に使われているが、グラデーションがかかっていて少し濃いところがあり、ほかにも地色が紺色のページなどは、やはり人によっては非常に文字が見づらくなる。
- 明度差をもっとつけた方が、すっきり見えると思う。
- 同じフォーマットに落とし込んでいるので、場所によっては、余白が目立つ。
- 18ページとか、21ページの左上のブルーの「提言」を書いている部分は、コーディングをこれからされと思うが、括弧を入れるとか、取り組みの状況とかを見てほれほれするようなつくりにする、あるいは「提言」の部分を大きく出すなど、レイアウト上のことが少し気になった。
- 委員の紹介のページ（40ページ）の「学校校長」という表現は、「学校長」にしてほ

しい。ほかにも「本部 本部長」という表現なども違和感がある。

- 委員名簿については、所属や役職の表現方法について、各自で事務局に知らせることとする。
- 一般的にカラーの上に文字を載せた場合に、年配の方には読みにくいところがある。読みやすくするためには、文字色と地色の明度差をつけることが大事である。
- 何よりも、読みやすく構成することが大事。
- 繰り返しになるが、中核機能がなくて昨年度のイベントが実現できるわけがないので、当然そうした機能はあったという前提で、それをより強化していくということが正しい表現である。
- 区民目線という話もあったので、報告書の中の「フィールドミュージアムの実施」のページに、可能であれば、参加された方などのアンケートの結果やイベントが実施されたことへのコメントなどがあった方がいいと思う。それにより、臨場感が出てくる。
- 印刷会社の目から見ても、レイアウトは非常にきれい。文字組みも非常に読みやすく書かれている。
- 文字量が多いので、もう少し何とかならないか。
- もう少し写真掲載ができれば、もっと見た目がよくなると思う。
- 「提言」と「提言に向けた1つの取り組みの方向性とこれまでの取り組み」が記載されている箇所は、図解されているが、その意味や読み方をもう少し伝えられる方法があるのではないかな。全体の構造として「こうなっています」、「こういうふうにご覧ください」という読み方のルールがわかる記述があると、よりよくなるのではないかな。
- 誰からの提言、どこの会議からの提言なのかが記載されている箇所、それに対しての方向性が記載されている箇所は、読んでいけばわかるが、一目瞭然で「こういうふうに出て上っています」、「報告書の構造はこうなっています」という説明が冒頭にあれば、もっと見やすくなる。
- たしかに、この報告書を読む人は初めて資料を目にするので、読み方の説明があった方が読みやすい。
- 会議当初から、資料に新宿の文化芸術活動がずっと書いてあったが、最初の頃は、新宿ではこんなに多くのイベントをやっている、文化芸術に関する活動がこんなに多くあったのかという驚きがあった。一方、新宿区民として誇りにも思った。
- 会議を重ねるにつれて、フィールドミュージアムという大きな括りができ、個々の文化芸術活動がだんだんと整理されてきた、とてもわかりやすくなったという思いがある。
- 新宿フィールドミュージアム2011では、文化月間が設定され、文化月間中にさまざまなイベントが行われて、今までとはまた少し違った形で、フィールドミュージアムというものがとても大きな形で出てきたように受けとめている。
- フィールドミュージアムのような大きな括りができ、参加団体が連携した協議会ができたことが、とても大きな動きだったような気がする。今後、新宿での文化芸術活動がもっと活発になってくるのではないかな。
- 個人的には、マネジメントやコーディネートをしていく組織が、まだしっかりできていないとは思えないので、やはりそういう機能がしっかりできていけば、今後はよりよ

くなっていくのではないか。

- 中核的な組織をつくること、あるいは、もうできているのかもしれないが、そういうことが急務ではないかと思う。
- 四十数年前は、新宿区というのは、歌声喫茶とか赤テントとかの若者文化の発祥の地みたいなのがあった。今現在の新宿は、韓国をはじめとする外国の方のニーズというのが大変多いと聞いているので、今後の希望として、そういう方たちの文化を生かせるような、フィールドミュージアムの活動に参加できるようなことができればいいのではないか。
- 韓国文化院がフィールドミュージアム協議会に参加しているが、もっと多くの方々に参加していただくことができるような取り組みができれば、今後よいのではないか。
- 新宿は外国籍の方が、特にアジア系の方が非常に多くいるので、さまざまな文化があり、そうした文化を持つ方々に参加してもらうことが大事である。逆に、こちらも自分たちとは異なるいろいろな文化との接触があり得る。外国の人たちともお互いに理解を進める必要がある。
- 文化センターで開催された「踊りの祭典」のような多文化の活動は報告書にも成果として記載したい。こうしたことが書いてあると、いろいろな視点を意識できる。
- 文化センターのあり方として、新宿だけではなく東京全体の活動へのアプローチが大事で、新宿区民だけではなくて、幅広い活動が新宿の賑わいの創出につながっていく。
- 報告書の18ページの「23年度までの主な取り組み」について、報告書の記載内容と「私たち区民」による文化芸術振興の取り組みについて」という参考資料とつき合わせてみて、内容が一部異なっているのではないかと思われる表現がある。
- 保育園、幼稚園、子ども園等での子どもの育ちに合わせた「モンゴル馬頭琴演奏」は、たぶん多文化理解の一環で、戸山小学校で実施された馬頭琴演奏などだと思う。報告書にある表現だと、保育園、幼稚園、子ども園で馬頭琴演奏が行われたと捉えてしまうが、正確なところを書いてもらいたい。
- 同じ資料内の④の箇所について、都内に「子ども劇場」は何十か所もあるので、正式名称で「遊びと文化のNPO 新宿子ども劇場」と書いてもらいたい。
- この会議には自分自身も区民目線で参加してきたが、いろいろなことをたくさん気づかせてもらった。
- 学校におけるコーディネートの必要性を非常に強く感じた。スクールコーディネーターとしての活動を通して、学校現場における芸術などの分野のコーディネートが、あまり有効に生かされていないということがわかった。
- せっかくいろいろなコンテストがあったり、たくさんの文化財の資源やまちの発見などの事業があったりする一方で、実際のところでは、学校現場においてはあまりうまく利用されていないというのが現状だと思う。
- たとえば小学校3年生になると、実際に自分たちのまちの中を歩いて、歴史的なものを自分たちの目で見るという取り組みがあるが、先生方の中には区外から来ている方も多く、なかなか新宿のまちのことをよく知らないという部分が少なからずあり、小学生のまち歩きに使う資料にも事欠いている。実際にどういうものを利用したらいいのか、先生方も試行錯誤でやっている。

- 取り上げられている有形無形の文化財などを、学校現場に具体的に活用しやすいものとして情報提供できれば、子どもたちのために、また教育現場の中で生かせると思う。
- 実際に子どもたちが新宿のまちを歩くことによって、子どもたちの地域愛着や地域形成などにも生きてくるのではないか。
- 提言実現へ向けての取り組みの方向性の中に、「新宿区の教育ビジョンを基本とした取り組みの推進」とあるが、具体的にどういうところで新宿区の教育ビジョンとリンクしているのかが少しわかりづらい。
- 具体的には、新宿区の教育ビジョンには、こちらの振興会議の動きがあまり生かされていないという感じがある。きちんとリンクしていると、この会議で取り上げられた議論がもっと生かされるのではないか。
- 文化センターのあり方について、いわゆる劇場法（劇場、音楽堂等の活性化に関する法律）が施行されたこともあり、地域を文化で豊かにするための拠点として、今後の文化センターの利用の仕方を検討する必要があると感じた。
- 文化センターのあり方に関して7つの提言があるが、区民がより利用しやすいように、また開かれた文化センターとして、いろいろな方々が利用できるように、もう少し区民が参加しやすい、あるいは区民がボランティアやサポーターとして参加できるような取り組みが強化されると、より地域が文化的に豊かになるのではないか。
- 教育現場の方にもこの振興会議をきちんと見てほしいという意見が出たが、一緒になって考えていければいいと思う。
- 特に学校教育について、子どもたちへの文化芸術の継承も当然大事なことになるので、事務局から振興会議の活動を教育委員会に宣伝してもらいたい。
- 新宿区文化芸術振興会議の定義として、文化芸術に関する調査検討を行うとなっているが、会議そのものは調査をやっていない。実際にはその調査をどこがやったかを明記した方がよいのではないか。
- 実際には、いろいろな事業を実施している機関が既に新宿区にはたくさんある。たとえば新宿文化センター、新宿歴史博物館、新宿未来創造財団などの機関がやっていることがこの振興会議と非常に重なっている。今挙げたような実施に関わっている各機関との関係を報告書のどこかに記載してほしい。
- 歴史博物館や教育委員会、ほかにも、たとえば文化財協力員という人たちが、地域の文化資源の調査などを行っている。こうした活動について、やはり少しでもいいからどこかに記載しておいたほうがいいと思う。
- どこの機関が中心になってまとめているのか、どこが中核となっているのかが、この報告書の中からは漠然としたところしか見えないので、もう少し具体的に記載した方がよいのではないか。
- 振興会議の検討事項としての調査・検討ということがある。そして、これは実際にはさまざまな実施機関が活動していて、他の団体と連携して実施されているものもある。
- 振興会議の庶務関係は、地域文化部文化観光課において処理するということが決められていて、具体的には事務局として文化観光課が動いている。そして、実際に多岐にわたる資料を集めたり、調査したりというのは文化観光課が行っているが、調査の際には、ほかの調査成果も取り入れて資料を作成している。では、それをどういう形で

報告書に記載したらよいか。

- 協力機関や協力組織として名前を出すことが必要ではないか。
- 「第1期を終えて」という高階会長のコメント（37ページ）に「いろいろな方々の組織を含め、ご協力をいただいてこういう結果が出た」ということを入れるというのはどうだろうか。
- 文化芸術振興基本条例に「振興会議が調査・検討をできる」と書かれているだけで、実際の調査をこの会議がやるのかどうかということは触れていない。
- 振興会議の定義として書き込むというよりは、実際に第1期を終えたときに、今までいろいろな方の協力を得て事業もできたし、フィールドミュージアムもできたし、また調査審議にあたっても、さまざまな支援を受けたというように表現すればよいと思う。
- 関係の方々にはデータを提供してもらっている、あるいは、関係する方々にさらにヒアリングをしたということも全部含めて、最後に会長から一言御礼を言っていただくという整理にしたらどうか。（一同、了承。）
- 当初、報告書を本編と資料編という構成で資料を用意してもらったが、一般区民の方が全部を読むとは思えなかったので、専門部会で整理をして、概要版を作成することとなった。
- この概要版が、素案のように報告書の本体に入り込むことがどうなのだろうと疑問に思う。
- 専門部会では、概要版は概要版としてリーフレットか何かを作成し、報告書本体を本編と資料編で作成してみてもどうかと提案をしたが、いろいろな諸般の事情があり、概要・本編・資料が一冊の冊子となって報告書の素案としてまとまった。
- もちろん、これはこれでいいのかなと思うし、一方で少し内容が重複する部分もあると感じる。
- 基本的な手間と予算の問題もあるとも思ったが、そのあたりの状況について、一度この場で確認したい。
- 中核的なコーディネーション、中核的な機能について、専門部会でも議論があり、そのときに特にイメージしていたことは、やはり新宿文化センターがコーディネーションを行う中核的な機能であるのかと思った。
- 本当は「中核的な組織」と書きたかったが、それはいくら何でも書き過ぎになってしまふという考えもあった。
- 本日の各委員の話を聞いていると、新宿文化センターだけでなく、いろいろなところでコーディネーション機能があって、それらをつなぐような、ネットワークを構築していくという構造の方がいいように思い、ここは「中核的な機能」という表現ではなく、「さまざまなコーディネーション機能」というような表現にした方がいいのではないか。または、新宿文化センターのことを念頭に置いて、少し中核的な部分についても触れたほうがいいのか、各委員の意見をもう一度聞きたい。
- 「中核的」というのは、少し強すぎるような気がするし、表現として少し目立つ。
- 「中核的な」、「さまざまな」というときに、機能というのは単数か複数かで違ってくる。
- 中核的な機能というと単数で、そこだけしかないということになってしまう。

- さまざまな機関がすでにあるのならば、ネットワークをつくるのが大事で、それが実際に生かされていろいろな活動が実施されているということをもっと知る必要がある。
- 少し「中核的な」という言葉だけが突出しているような感じがある。
- いろいろなネットワークは、たぶんフィールドミュージアムができて、この枠組みが基本的なものになってくると思う。そうすると今度は美術館なら美術館ネットワークができてきて、だんだんと重層的になっていくのだろう。
- それにしても資源的にやはり弱いと感じるので、能力というか、資源というか、そういう意味での「中核」ではないが、違う言葉で表現できた方がいいような気がする。
- 現在もいろいろな組織や機能があるが、うまく進めていくためには、何らかの中心的な組織がないといけないという思いがある。
- 前回の専門部会でも議論が不十分なところがあった。むしろゆっくり第2期の振興会議の課題として、もう少し掘り下げた方がよいと思う。
- 「中核的な機能」といったときに、新宿文化センターが担うのがいいという意見もあれば、現実的には難しいという意見もある。このテーマはもっと大きなテーマとして捉えた方が適切だと思う。
- 区の課題はやはりいろいろあるので、現状を把握して、進め方をじっくり考えたほうがよいと思う。
- もし、この報告書にもう少し内容を盛り込むならば、9月までに、もう一回専門部会をやった方がよい。
- 中核的な組織として、たとえばハード面ではなくてソフト面の話だが、東京都美術館がリニューアルする中で「とびらプロジェクト」という活動がある。これは、300人の応募の中から面接などにより約90人のボランティアを採用し、そのメンバーに対して何回も研修を行いながら、東京都美術館にこれから訪れる人たちと、都民とのコミュニケーションをさまざまな形で取り組もうというもの。このメンバーは年代も高齢者から若い学生までさまざまな分野の人で構成され、さらには事務局として、芸大から当面の間は出向で2名が専任で従事している。
- もし区内で同じようなことをやるならば、早稲田大学の協力など何らかの形で区民を巻き込んでできるとよい。こうした活動はもともと事務局がしっかりできているということがひとつの柱となる。既存の文化センターではなくて、何か活動の中から1つの中核的な組織ができたらいが、それはやはりもう少し論議を重ねないと、第1期の報告書のまとめの段階では無理があると思う。
- いろいろやり方として考えられるが、報告書では「第1期を終えて」のページで会長の挨拶として、第2期では「こうやってほしい」という期待をサジェストしておくことはできる。
- この報告書の素案は大変よくまとめているが、各委員それぞれの意見で直すべきところがいくつかある。
- 報告書の構成として、概要版と本編部分を合体しているが、概要版というのは、本来、本体とは別のもの。合体版になっていてももちろん構わないが、それとは別に、概要版だけを配るということは必要なのではないか。あるいは、概要版だけは少し多く刷るということもあってよいと思う。

- 報告書を欲しいという人全員にこの厚い冊子を渡さなくてもよいのではないか。
- 委員の中から、本日の議論の整理も含め、もう一回専門部会を持った方がよいかという意見があったが、時間的に部会員の方に集まってもらう機会を設けられるか。そうすれば、事務局がもう少し報告書の内容をまとめることができると思う。
- 今後のスケジュールとして、今期の振興会議はもう一回やるのか。それはここで決めてしまってもよいか。（９月にもう一度開催することで合意。）
- 「４－２ フィールドミュージアムの取り組みの方向性」（報告書３０ページ）について、特にページ下の方の（２）に「ターゲット（対象・狙い）」とあるが、そこに外国人、あるいは「子どもと保護者」の分類があるとよいと感じた。
- 教育現場での活動については、教員は人事異動があることや、忙しい学校の事情などを考えると、さまざまな文化振興の分野についても、各学校が取り入れるための手引きをつくったりすることは現実的に無理。
- 手引きをつくったとしても、実際には先生方は読めないだろう。
- 美術鑑賞についても、学校に直接相談に行って、説明したことがあり、美術鑑賞事業の手引きをつくり説明したが、なかなか読んでもらえない。既存の制度として実施している事業でもこのような状況にある。
- さまざまな分野について、実はいろいろな事業がある中で、それに対応できる方、できない方、先生方によってもさまざまだと思う。
- その学校のニーズについて、教育ビジョンは必ずしも全部カバーしているわけではなく、区民がサポートできる場合は、学習指導要領まで確認して、そこで求められるさまざまな子どもたちの育成のために、必要な手法をとっていけばよい。
- 学校単独ではなかなかできないが、サポートできる方法は、実はさまざまあるので、実現できれば、非常に役立つし、すばらしいものになると思う。
- フィールドミュージアムに関しては、強化月間としてその２ヶ月をメインで実施するが、開催期間がどうしてもそれぞれの組織、団体によって、あるいは実態によって、その期間に合わせられないということもある。
- 代表的な新宿の街角のありとあらゆる場が、ミュージアムのフィールドになってもよいという発想なので、１０・１１月をメインに展開するけれども、その前後、ゆるやかな括りでさまざまな催しがあるということを周知してもらいたい。
- フィールドミュージアムでいう「フィールド」は、なにか催し物をやっているところだけではないし、期間も文化月間に限られるものではない。強化月間ということではあるが、ほかの期間でも文化芸術活動をやっている。
- フィールドミュージアムという言葉も、ほかの事業でももっと使用したらよい。区全体でうまく進めていってもらいたい。
- 昨年度試行的に実施してみて、文化月間型のフィールドミュージアムは、ある意味で成果みtainなものを集約しているが、取り組みとして更に発展させるためにも、文化月間外での活動の呼びかけを恒常的に行う必要があるのではないか。
- フィールドミュージアム協議会の各参加団体でメーリングリストを構築したが、このような取り組みなどを通じて、よりネットワークを広げていくというのがやはり必要だろう。今後に向けてのあり方として、引き続き取り組んでももらいたい。

- ・第1期振興会議の任期は今年の9月で終了するが、フィールドミュージアムを通じたネットワークの構築などの成果と、それから、「もっとこうしたい」、「次はこういうことを考えてほしい」という思いが当然あり、次期振興会議で発展させてもらいたいことも考えながら、うまくそれをサジェストしていければいい。

### 3 次回日程について

第7回振興会議では、平成24年9月頃を開催するとともに、新宿区長への活動報告会も同日開催とする。なお、詳細な日程や会場等については後日事務局から連絡することとした。

### 4 閉会

会長のあいさつをもって、午後5時に閉会した。